平成２６年　第６回教育委員会会議録

１　日　時

平成２６年４月１７日（木）

開会　１６時００分

閉会　１６時５５分

２　場　所

教育委員会室

３　出席した委員

金田清委員長、八重澤美知子委員、横山真紀委員、橋正徹委員、中村健一委員、木下公司教育長

４　説明のため出席した職員

青木哲雄教育次長、平畠敏彦教育次長、齊田正活教育次長、金戸清外志教育次長兼庶務課長、竹中功教育次長兼学校指導課長、宮﨑栄治教職員課長、坂井芳子生涯学習課長、柴田政秋文化財課長、森山喜博スポーツ健康課長

５　議案件名及び採決の結果

議案第13号　平成２７年度使用教科書の採択方針について　（原案可決）

議案第14号　文化財の県指定に係る石川県文化財保護審議会への諮問について　（原案可決）

６　報告案件

報告第１号　平成２６年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における入学者選抜結果について

報告第２号　平成２５年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について

７　審議の概要

・開会宣告

金田委員長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第13号は、教科書採択に関する案件のため、議案第14号は、審議会への諮問予定案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１３条第６項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

報告第１号　平成２６年度石川県立金沢錦丘中学校及び石川県公立高等学校における入学者選抜結果について

（竹中教育次長兼学校指導課長説明）

資料の６ページをご覧ください。

はじめに、１の県立金沢錦丘中学校についてですが、適性検査を平成２６年１月２６日に実施いたしました。

選抜方法につきましては、（２）にお示ししたように、小学校長から提出された調査書並びに総合適性検査、作文及び面接の結果を総合的に判定し、入学者の選抜を行いました。

（３）選抜結果ですが、①に示しましたように、募集定員１２０人に対して、３４５人が受検し、うち、１２０人が合格しております。なお、受検倍率は、２．８８倍でありました。

②の郡市別内訳については、金沢市が７４人と最も多く、ついで白山市・野々市市が３６人となっておりまして、これまでとほぼ同様の傾向となっております。

次に７ページをご覧ください。

２の石川県公立高等学校における入学者選抜結果についてご報告いたします。

まず、学力検査等は、資料（１）にお示しした期日で実施いたしました。

（２）の選抜結果でありますが、①の公立高等学校全日制については、募集定員８，４８０人に対し、推薦入学等８４３人、一般入学７，２１４人の合わせて８，０５７人が合格いたしました。

②の定時制につきましては、募集定員４８０人に対して、推薦入学、一般入学合わせて１５８人が合格し、③の通信制につきましては、募集定員２４０人に対しまして、４４人が合格しております。なお、定時制、通信制ともに、人数は１次募集までのものであります。

また、各学校別合格者数の状況につきましては、８ページから９ページに全日制を、１０ページに定時制・通信制を記載してございます。

最後に、１１ページの（４）全日制の合格者の得点状況をご覧ください。

今年度の結果につきましては、①の教科別平均点にお示ししましたように、国語、社会、数学、英語の４教科で、平均点が前年度を上回りましたが、理科の平均点が下がったことにより、５教科合計の平均点は、昨年度と同じ２３９点となっております。

また、５教科合計の分布も昨年とほぼ同様の結果となっておりまして、受検生の学力を適切にはかれる検査ができたものと考えております。

なお、中学校の校長からは、「やや難易度の高い問題も見られたが、全体として基礎・基本を問う問題と、課題を解決するために必要な活用力を問う問題が適切に配置されていた。」などの声をいただいております。

このあと、平成２７年度の学力検査におきましても、活用力を必要とする問題の出題を通して、中学校における授業の中で身につけるべき学力の方向性を示すとともに、小学校や中学校で学んだ力を的確に把握できるような出題を目指しまして、石川県高等学校入学者選抜が円滑かつ適切に行われるように努めて参りたいと考えております。

【質疑】
（橋正委員）
金沢錦丘中学校の受検倍率は昨年と比べ少し上がっているが、長期的に見てどのような傾向になっているのか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
平成１６年度の初年度の受検倍率が３．８４と一番高く、それ以降、近年は２．４から２．７あたりが続いていた。２６年度は、最近５年間で一番高い倍率となっている。

（金田委員長）
加賀市と中能登町の金沢錦丘中学校合格者は、下宿をするのか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
加賀市と中能登町から合格した生徒は、市内に転居したと聞いている。

（横山委員）
金沢錦丘中学校の県外合格者は昨年度４名で今年は０名とのことだが、今年の県外からの受検者数はどうだったのか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
手元に数字はないが、県外からの受検者については、石川県に戻って来られる方が受検するケースが多い。

（八重澤委員）
公立高等学校（全日制）の合格者の得点状況で、理科の平均点が昨年度と比べ１０点以上も落ちているが、一方で、５教科合計の得点分布を見ると概ね平均点を中心にして、昨年度と同じような山となっている。
ものづくりやこれからのキャリア教育を考えた場合に少し心配な感じがするが、理科について、現時点でどのような分析をしているのか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
理科の平均点は下がっているが、得点分布の山の形は正規分布に近い形になっている。
例年、基礎・基本を問う問題や活用力を問う問題に意識を置き、バランスに配慮しているが、具体的にどの部分がどうかということについては、今後、更に分析が必要であると考えている。
ものづくり等に関する懸念のようなものは、今のところ持っていない。

（八重澤委員）
この理科の落ち込みはとてもに気になるところ、他の地域でも理科と数学の教員を力を

入れて採用している。
今年度の合格者に対して、この結果を補うような指導が学校に求められると思うので、この結果が良いとか悪いとかではなく、これを補うような学力を生徒に付けてほしいという要望ですので、是非、分析をお願いする。

（金田委員長）
理科の平均点４０．２は、生徒が問われるよりも問題作成者が問われる。
全体的に難しかったのか。問題の難易度分布はどうだったのか。

（竹中教育次長兼学校指導課長）
難易度の分布は昨年度と変わらないと考えていたが、今後、基礎・基本の部分、活用力を問う部分がどうであったのかをしっかりと分析したうえで、中学校側に伝えたいと考えている。また、引き受けた高校の方にもメッセージを伝えていきたいと考えている。

（八重澤委員）
分析にあたり、気を付けなければならないのは設問の読解の問題、大人には分かるが、子供には何を答えていいのか分からないこともあるので、多方面からアプローチして、この分析結果を活かす方向でお願いしたい。

（橋正委員）
教育の質の問題で突然１０点も下がるということは考えられないことなので、設問の質や内容といった問題が大きいのかと思うが、理科教育を大事にしていこうという時代の流れに取り残されないように小中の理科教育の質の方も力をいれて指導してほしい。

（金田委員長）
平均点が５０点を割り込むということは、かなり厳しい問題を出しているという感じ、解けない子も出てくる可能性がある。

（中村委員）
いずれにしても、これだけの格差が出ているということは由々しきこと。
これについては徹底的な追求と万全の対応をしていかないといけない。

（金田委員長）
中学校の教科だけでなく小学校とのつながりも注視しながら、今年度の指導方針を考えてほしい。

（木下教育長）
個別の設問の内容を検証し、理科で平均点が１１点近く下がった理由が、子どもたちの学力の部分に課題があるのか、設問が少し難しかったという問題なのかといったところを含め、しっかり分析したい。

また、高校での定期試験等の結果の追跡もしっかりとやっていきたい。

報告第２号　平成２５年度全国高等学校選抜大会等における本県選手団の成績について
（森山スポーツ健康課長説明）

資料の１２ページをご覧ください。
平成２５年度全国高等学校選抜大会等につきましては、東京都をはじめ、１７都道府県において、平成２５年１２月２１日から２６年４月７日までの期間で各競技ごとに開催され、本県より２７競技に選手４６６名が参加いたしました。
成績は、団体では相撲の金沢市立工業高校が優勝、サッカー男子の星稜高校とボウリング男子の金沢市立工業高校が準優勝したほか、ボート、弓道、ボウリング、ソフトボールでベスト８までに入賞する活躍がみられました。
個人では、相撲で金沢市立工業高校の西野選手が優勝、ライフル射撃、ビームピストルで金沢辰巳丘高校の佐成選手、ウェイトリフティング男子５３kg級トータルで津幡高校の柳生選手、同じく男子８５kg級トータルで小松工業高校の中島選手が準優勝したほか、９名の選手が８位以内に入賞しました。
団体、個人の入賞数は２０で、ここ５年間で最多となっており、南関東ブロックで開催されるインターハイや長崎国体での活躍につながることを期待するとともに、本県の高校生が、さらに優秀な成績をあげられるよう、県高体連をはじめ関係団体との連携を一層深め、競技力の向上に努めて参りたいと考えています。

【質疑】
（中村委員）
この結果は、全国でみると何位になるのか。

（森山スポーツ健康課長）
全国の入賞数の合計は集計していないので、資料はない。

（金田委員長）
石川県として、入賞数２０は初めてなのか。

（森山スポーツ健康課長）
平成２０年がここ１０年間でのピークで、入賞数は３６、当時は、金沢高校から日大に進んだ水泳の小堀選手、一人で３種目も入賞があったほか、ウェイトリフティングでも優秀な選手がいた。

（金田委員長）
何とかして、インターハイや国体につなげていってほしい。

（金田委員長）

以降の審議については、非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第１３号　平成２７年度使用教科書の採択方針について（非公開）
竹中教育次長兼学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案どおり可決された。

議案第１４号　文化財の県指定に係る石川県文化財保護審議会への諮問について（非公開）
柴田文化財課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案どおり可決された。

・閉会宣言
金田委員長が、閉会を告げる。